

戦争を忘れない

白山中学校 二年 小倉 光葉

私達にとって八月十五日は、忘れてはならない日だと思います。八月十五日は、日本がアメリカを中心とした連合軍に敗れたため天皇が国民に敗戦を宣言した日です。

八月になると、当時の体験を語ってくださる方をテレビや新聞でよく見かけるようになります。実際、私が小学生のときに、戦争を体験し被爆された方にお話を聞いたことがあります。お話しして頂いた内容をいくつか例に挙げると、

「原爆で約十四万の方々が亡くなった。」

「原爆が七色に光っているように見えた。」

「原爆が落とされた場所の近くにあった建物はほとんどが押し潰された。」

「遠い地域にいた人でも、放射線による被害などがあった。」

「原爆で負った傷を治す薬はなく、アロエを塗っていた」

「被爆された方は差別を受けていた。」

などというお話を聞くことができました。

たくさんのお話の中で私の心に強く印象に残っていることは、原爆でまだ幼い子までもが大勢亡くなってしまったことです。なんの罪もない大勢の方が犠牲に…。

そのお話を聞いて私は、胸が苦しくなり、すごく悲しい気持ちになりました。戦争さえなければ、もっと生きることができたのに…。このようなことはもう二度と起きてほしくないと強く、思いました。

当時のとても辛い体験や思いを語ってくださった方に感謝いたします。貴重なお話をたくさん聞くことができ、そのお話のおかげで戦争は絶対に繰り返してはいけないことだと痛感しました。

けれども、年月が経つにつれて戦争の体験者や、体験を語ってくださる方がいなくなってしまいます。そうなると、戦争の悲惨さや残酷さ、戦争に対する関心がだんだんうすれていってしまうと思います。

戦争の悲惨さや残酷さを忘れないために、私達にできることは大きく分けて二つあると考えました。

一つ目は、戦争を「知る」ことです。本やネット、テレビなどで、戦争はどのようなものだったのか、どんなことが起こったのか、自分から関心を持って調べることが大切だと思います。

二つ目は、戦争を「語り継ぐ」ことです。大人になって子どもができたり孫ができたりしたら、自分が知っている戦争のことについて語り、悲惨さ、残酷さを伝え、戦争は絶対に繰り返してはいけないことだと教えることが大切だと思います。

他にも私達にできることはないか、ぜひ考えてみてほしいです。

今現在も、世界中で戦争や紛争が起こっており、戦争している国やその影響を受け

ている国がとても苦しい思いをしています。戦争や原爆を経験した日本だからこそ、悲惨さや残酷さをもっと世界に伝えるべきではないかと思えます。

改めて、八月十五日は忘れてはならない日だと思えます。忘れないために戦争を「知る」こと、「語り継ぐ」ことを私達で行っていかれたらうれしいです。